

第

65回海外日系人大会 参加登録受付中!

「混迷と不安が深まる世界とニッケイ社会 ～新たなつながりを求めて」
早期割引は7月末まで

OFFLINE & ONLINE

第65回 海外日系人大会

令和7年 9月17日(水)～19日(金)

The 65th Convention of
Nikkei and Japanese Abroad
September 17th to 19th, 2025

参加登録
受付中!!
(早期割引は
7月末まで)

「ニッケイ社会を動かす女性の力」(共に仮題)という2つのテーマでパネルディスカッションを行う。1.のパネルでは、「若い世代の活躍」を中心に、日本とニッケイ社会、ニッケイ社会間の連携や新たなつながりの在り方について討議するとともに、2.のパネルでは日系団体の婦人部活動や女性起業家など、「女性の活躍」にスポットを当ててニッケイ社会の過去、現在、未来を語る。夕刻には外務大臣主催の海外参加者歓迎レセプションが開催される予定となっている。

最終日は、大会テーマの枠を超えて参加者間で共有した

当協会は第65回海外日系人大会を、9月17日(水)から19日(金)の3日間、東京で開催する。昨年、一昨年に続き、東京都新宿区のJICA市ヶ谷ビルをメイン会場とし、「混迷と不安が深まる世界とニッケイ社会～新たなつながりを求めて」を総合テーマに基調講演や国際シンポジウム、歓迎交流会等を実施する。

初日は、午後より開会式、基調講演、および当協会主催の参加者歓迎交流会を開催する。基調講演には、ブラジルよりブラジル日本文化福祉協会の石川レナト名誉会長をお迎えする。また、第二次世界大戦中のハワイにおける日系人の迫害と人権侵害についてとりあげたドキュメンタリー作品「Removed by Force」の上映会も行うほか、エンターテインメントとして、ブラジル日系4世の歌手、メリッサ・クニヨシさんによるミニライブも予定している。

2日目は、国際シンポジウム(パネルディスカッション)もしくはオフィシャルツアーのどちらかを選んで参加する選択制のプログラムとなる。オフィシャルツアーでは埼玉県の大宮を訪れ、縁結びのパワースポットとして有名な氷川神社や、造幣局のさいたま博物館の見学などを予定している。

国際シンポジウムでは、1.「新たなつながりを求めるニッケイ新世代」、2.

いテーマ等について発表する「日系人の主張」、日本で生活する若手日系人による日本語のスピーチ「在日日系人スピーチ」のほか、衆参両議院議長主催による昼食会も予定されている。

今大会も、主要なプログラムにおいて対面とオンライン配信を行うハイブリッド形式による開催とし、オンライン参加については参加資格を設けない。対面参加については、参加資格を原則として「移住者・日系人の方々」としているが、日頃からニッケイ社会の一員として活動に関わる非日系の方々の参加も大いに歓迎している。

対面参加の参加費(海外参加登録)は、一般・18,000円、ユース・9,000円。ただし、7月31日までの期間は早期割引(一般・16,000円、ユース・8,000円)が適用される。オンライン参加は無料。参加登録の申込みは、対面・オンラインともに当協会WEBサイトにて、受付中。

▼参加登録はこちらから→
<https://jadesas.or.jp/jp/taikai01/>





～動画配信中～

6月20日は「国際日系デー」!!



記念イベント

「クイズ! NIKKEI Around the WORLD the 3rd」

世界のニッケイ社会ネタをクイズに

6月20日の「国際日系デー」を日本国内で広く周知するために、当協会が実施している記念イベント「クイズ! NIKKEI Around the WORLD」の第3弾が、現在当協会YouTubeチャンネルで配信中だ。

これは、世界各地のニッケイ社会にまつわるあれこれをクイズとして出題し、事前に回答を応募してもらったうえで、クイズの正解と解説をオンラインで配信するというもの。前回に続き、世界各地から日系人・ニッケイ社会にまつわる「自慢ネタ」や「日本人にはあまり知られていない話」などを募集し、お寄せいただいた情報を元に全13問のクイズを出題した。

初回、第2回に続き、3度目の開催ともなれば、さすがにもうネタが尽きるかと思いきや、今回も世界の各地からたくさんの興味深い情報が寄せられた。世界のニッケイ社会にはまだまだ知らないことがたくさんあるのだと認識を新たにしたい。

〔第1問〕

2024年のパリ・オリンピックで金銀銅の3メダルを獲得した選手の“共通点”が『母親が日本人だった』競技は？

1. 水泳
2. 柔道
3. レスリング
4. スケートボード



司会進行役は日系留学生の2人



日本財団日系留学生の2名が司会を務めた

今回も、司会は当協会が受け入れている日本財団日系スカラーシップの現役留学生2名にお願いした。司会のひとり、パラグアイ出身の松元ワルテル光さん(3世)は、現在文化学園大学で造形デザインと書道を学んでいる。もう一人、ペルー出身の大城成美さん(4世)は今年4月に来日したばかりで、現在は日本語学校で学びながら進学準備をしている。

普段、日本語会話にはまったく不自由しない2人だが、カメラの前に座り、日本語で司会進行をするのはやはりとても緊張した模様。それでも、楽しみながら一生懸命にクイズショーを盛り上げてくれた。

司会の2人の息の合った、否、なかなか合わなかった(?) 楽しい様子も、おまけ動画で紹介しているのでぜひお楽しみいただきたい。

現地からのレポートも盛りだくさん

現在配信中の動画では、クイズの答え合わせと解説、そして成績優秀者の発表を行っている。アルゼンチンの美しい街並みやニッケイ社会のイベントの魅力をふんだんに紹介したドローン撮影の動画のほか、日本からアルゼンチンに渡った移民1世にまつわる物語、ペルーから寄せられた美味しそうな

国際日系デーとは…

1908年に第1回ブラジル移民船笠戸丸がサントス港に到着した日にちなみ、日本では総理府(現内閣府)が6月18日を「海外移住の日」と定めている。ブラジルでは6月18日を「日本移民の日」として関連行事や記念ミサ・法要が行われているほか、各国の日系社会それぞれに「移民の日」がある。

一方で、各国の日系人にとって国を越えた共通の記念日はなかったことから、世界共通の記念日を設けることで、日系人としてのルーツに思いを馳せ、受け継いできた日系レガシーを継承し国際社会に貢献していこうと、日系人自らが発案し制定されたのが、「国際日系デー」だ。

日本在住の日系人(アルゼンチン日系2世の比嘉アンドレスさん、ペルー日系3世の伊佐 正 アンドレスさん)が2017年にペルーのリマで開催されたパンアメリカン日系人大会で提案し、2018年にハワイで当協会が開催した第59回海外日系人大会にて各国参加者の賛同を得て、日本からの最初の移民集団がハワイに上陸した6月20日を記念日として制定することが宣言された。

世界各地の日系人・ニッケイ社会にとって、この日が先人の苦労や貢献に想いを馳せ、日系人であることの誇りを改めて認識するきっかけとなることを願って制定された記念日である。ブラジルでは、日系議員らの働きかけによって、サンパウロ市の公式カレンダーにこの日が制定されている。



フュージョン料理の話題、ブラジルのグアタパラ移住地にあるれんこん畑からのレポート、フィリピンの迫力満点の神輿パフォーマンスなどなど、今回も盛りだくさんの内容となっている。

ほとんどのクイズが4択問題だったが、唯一記述式の回答を求めた出題では、「そうきたか!」と思うようなおもしろい回答も多数集まった。こちらも動画内で紹介しているので、ぜひチェックしてみてください。



フィリピンの神輿パフォーマンス



グアタパラ移住地のれんこん畑からの出題



アルゼンチンから出題してくれた
セントロ日系のレアンドロさん

全問正解者は1名、成績優秀者は全10名!

今回、栄えある全問正解者は、神奈川県のをんわんさん1名のみ。13問中12問正解の第2位と、11問正解の第3位を合わせた10名を成績優秀者として表彰した。

成績優秀者のみなさんと、クイズのネタとなる情報をご提供いただいたみなさんへは、今年も国際日系デー公式ロゴマーク入りのオリジナル・エコバッグをプレゼント。該当するみなさんは、到着を楽しみにお待ちいただきたい。

たくさんのご応募どうもありがとうございました!!



海外で実施された、国際日系デーを祝うイベントをいくつかご紹介!

●BOLIVIA

ボリビアでは、サンタ・クルス中央日本人会の青年部が中心となり、日本食レストラン「義村」にて記念イベントが行われた。「義村」は、今年5月～6月にかけて当協会が実施したJICA日系社会研修「食を通じた日系団体活性化」コースに参加した研修員の義元圭吾さんがオーナーを務める牛丼やカツ丼、餃子、カレーライスなどが大人気の店だ。イベントでは、浴衣の着付け体験や、サンタ・クルス日本語教室の先生方による折り紙と習字のワークショップ、詩の朗読や講演などのプログラムが実施された。また、ペニ県のグアヤラメルン市にあるグアヤラメルン日ボ文化協会からは、国際日系デーを祝うメッセージ動画が共有された。



●PERU

ペルーでは、AELU(ラ・ウニオン運動場協会)の主催で記念イベントが行われ、琉球国祭り太鼓ペルー支部の演技や、日系人バンド「Chancho con Piña」によるライブなどに大勢の人が集まった。



●ARGENTINE

アルゼンチンの日亜学院では、高校生の生徒6名が、それぞれ自分の家に伝わる日本の習慣について発表する動画を記念日に合わせてインスタグラムに投稿した。カレーライスやお箸、日本茶、仏壇、家の中では靴を脱ぎスリッパを履くことなど、日本ならではの食文化や習慣などが紹介された。



＝ 海外移住資料館イベント ＝

戦後80年
「日系」として平和を考える夏!

すずきじゅんいち監督作品
日系映画三部作を3週連続で上映!

上映後に
監督トークショー

8/2(土)は「監督の監督」として本作品の撮影に参加された
神原るみさんがトークショーに参加します!

※各回14時から。詳細は JICA横浜 海外移住資料館HPをご覧ください

8/2 Sat.

握った。生きた。戦った。
東洋宮武が覗いた時代

おつてアメリカには日本人撮影隊がいた。感動のドキュメンタリー映画。

8/9 Sat.

寂しき。そして彼等は 大船で渡った
442
日系部隊 アメリカ史上最強の陸軍

8/16 Sat.

に続く。衝撃のドキュメンタリー
二つの祖国で
日系移住情報部

「夢の実現プロジェクト」奨学生募集中!

日本財団からの助成を受け、海外日系人協会が実施する、日系スカラーシップ「夢の実現プロジェクト」の次年度奨学生募集が、5月19日より開始された。この奨学金プログラムは、日系社会・居住国と日本との相互理解を深め、居住国や地域社会の発展に貢献する明確な計画や夢を持つ若い日系人に対し、その実現のために日本への留学機会を提供している。



▶ 20年以上の歴史と広がる活躍の場

本事業は20年以上の歴史を持ち、これまでに受入れた奨学生の人数は約180名にのぼる。卒業生たちは、日本留学で培った知識と技術を活かし、医療、福祉、経済、建築、教育、芸術、文化など多岐にわたる分野で活躍している。また、本事業を通じて育まれた日系ユースのつながりを活かし、日系社会や地域社会への貢献も果たしている。

▶ 対象地域の拡大と採用枠の大幅増員

昨年度までは、中南米と一部東南アジア（フィリピン・インドネシア）の日系人を対象としていたが、今年度からはカナダ・アメリカ（ハワイ含む）など、北米の日系人も対象に加えて募集を行っている。さらに、毎年10名程度だった採用枠を、今年度は30名に大幅増員している。

▶ 多様な学びと国を超えたネットワーク

日系スカラーシップの大きな特徴は、専門学校、大学、大学院、研修など、あらゆる学校種や研修先が対象となる点だ。最長で5年間の奨学金が支給され、希望に応じて初年度に日本語学校で日本語を習得することも可能となっている。

また、年間を通じて、研修会や海外日系人大会への参加、留学生会活動など、留学生が集うイベントが多数開催されている。これらのイベントを通じて、国境を越えた日系ユースのネットワークが育まれることは、他の奨学金制度にはないメリットとなっている。

日本で留学生活を送る上で、こうしたイベントを通して親睦を深め、互いに支えあい、学習面でも先輩からのアドバイスや情報共有を通じて高めあえる環境は、本制度の大きな魅力と言えるだろう。冬の研修会では、九州や沖縄など日本の地方を訪れ、普段触れることのない日本の文化を学ぶ貴重な機会にもなっている。

今回の対象地域・採用枠の拡大により、日系ユース間で多様な日系社会・国や地域の価値観を共有しあい、さらにグローバルな日系ネットワークの構築につながることが期待されている。



福岡で実施した冬期研修会



在日ブラジル人学校対抗戦でのボランティア活動

応募方法と締め切り

応募を希望される方は、まず日系スカラーシップのホームページからエントリーし、応募書類をダウンロード。必要事項を記入の上、卒業（見込）証明書または在学証明書を添付し、Eメールで海外日系人協会まで送付されたい。

応募締め切りは7月31日。書類選考に合格した応募者を対象に、10月上旬に面接を行う。

※その他、応募に関する詳細は、海外日系人協会ホームページまたは日系スカラーシップホームページをご覧ください。

日系スカラーシップホームページ

<https://nikkeischolarship.org/jp/>

応募
締め切り
7/31

日系スカラーシップ
募集詳細はこちら



NIKKEIS around the WORLD

～このヒトに聞く～ vol.15

PJ・ヒラバヤシさん&ロイ・ヒラバヤシさん

世界各地で活躍する日系人や日系団体のみなさん、もしくは日系人・日系コミュニティに関わって活動している皆さんにお話を伺うコーナー「NIKKEIS around the WORLD」。第15回に登場いただくのはPJ & ロイ・ヒラバヤシさんご夫妻です。

PJさんとロイさんは、北米カリフォルニア州のサンノゼを拠点に活動する「サンノゼタイコ」の創設メンバーで、1973年の創設以来50年以上にわたりサンノゼタイコを率いて、北米におけるタイコの普及と発展に貢献してきました。2025年4月に来日したお二人に、サンノゼタイコ立ち上げまでの歴史や、タイコに対する想いなどについてお話を伺いました。

※北米の「タイコ」は、関係者たちによって、「和太鼓ではなくNorth American Taikoである」と誇りをもって表現されています。北米で独自に発展したワイン樽の「タイコ」と日本の「和太鼓」を区別するため、本誌では外来語として「タイコ」と表記しています。

プロフィール



国籍・世代:アメリカ3世
肩書:「サンノゼタイコ」
創設メンバー、名誉芸術監督
ロイ、PJともに、カリフォルニア州サンフランシスコのベイエリアで生まれ育つ。サンノゼ日本町を拠点とするタイコグループ「サンノゼタイコ」を共同創設者として1973年に創設して以来、演奏家、作曲家、パフォーマー、指導者として北米のタイコ文化の普及と発展に貢献。2010年にはロイとPJが外務大臣表彰を受賞。2023年には「サンノゼタイコ」代表者(当時)であったロイが日本政府より旭日双光章を受章している。

「サンノゼタイコ」が誕生するまで

PJ・ヒラバヤシ(以下PJ) 私の母方の祖父母は、福島県から移住した1世です。祖父はカリフォルニアとメキシコの国境地帯にあるグレープフルーツ農園で働いていました。祖母は、写真花嫁として日本からアメリカに渡り、10人の娘と1人の息子をもうけました。

ロイ・ヒラバヤシ(以下ロイ) 私の祖父母は、1900年の初頭に広島県からサンフランシスコに来了した。祖父母はその後、家族を連れて日本に戻ったため、アメリカ生まれの母は、「帰米2世」と呼ばれていました。1941年に、父と結婚するために母はアメリカに戻りました。

私たちは、サンフランシスコのベイエリアで育ちました。1960年～70年代のアメリカは、公民権運動や言論の自由、反戦運動が活発な時代で、その頃に私ははじめて、第二次世界大戦中に私たちの家族を含む日系アメリカ人が強制収容所に送られたという、不当な歴史を知りました。そして、一度も会ったことのない広島の祖父母が、原爆投下から5年後に亡くなっていて、深い怒りを覚えました。原爆投下直後に家族や友人を探すために広島市内に入ったことがその原因だったと私は考えています。

PJ 1970年代は、アジア系アメリカ人運動が盛り上がった時代で、私たち日系アメリカ人を含むアジア系アメリカ人は、3世として社会的な正義と自分たちの文化的アイデンティティを模索していました。こうした運動は多くの学生を立ち上げさせ、大学内に「アジア系アメリカ人研究」という新たな分野を作るきっかけにもなりました。

このような時代背景のもと、サンノゼタイコは、1973年にサンノゼジャパントウンで生まれました。いまでも、北米各地でタイコが親しまれています。そのルーツは私たち日系アメリカ人コミュニティのお祭りにあります。



サンノゼタイコのステージパフォーマンス

地域での活動からタイコの演奏集団へ

ロイ 最初は、サンノゼ日本町にある仏教会の青少年向け活動としてスタートしました。若い世代に日本文化を紹介することを目的に、地域の餅つきなど、主にコミュニティのイベントで演奏していました。

PJ お世辞にもすばらしい演奏とは言えませんでした。ある時、1世のお年寄りが集まるピクニックで演奏すると、ひとりの女性が涙ながらに私の所に来て「日本で子どものころに聴いて以来、長い間タイコの音を聴いていなかった。若い人がタイコ演奏をしてくれて本当に嬉しい」と言ってくれたことがありました。その言葉は、私の心に自分がなぜタイコを演奏し続けるのか、その理由を深く刻み込んでくれました。

ロイ 日本から和太鼓を輸入するには費用が高すぎたため、私たちはオリジナルのタイコを作る方法を見つけなければならませんでした。ロサンゼルスでタイコグループがワイン樽を使ったタイコを開発したことで、私たちも手頃な価格でタイコを自作できるようになり、日系コミュニティで次々にタイコが誕生しました。

PJ 1980年代半ばになると、私たちの活動は、コンサートを中心とする演奏活動へと変化していきました。演奏するための曲を作り、タイコや台、舞台衣装のデザインまで、すべてを自分たちで手がけるようになりました。

なぜ、タイコを演奏するのか？

ロイ 1991年には、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)にアメリカで最初のタイコグループが誕生しました。設立したのはサンノゼタイコの青少年育成プログラムの卒業生のひとりでした。これを機に大学のキャンパスでもタイコが知られるようになり、日系アメリカ人の学生だけでなく、アジア系アメリカ人や、それ以外の学生へも広まっていきました。

現在アメリカ全土には75を超える学生タイコグループがあります。タイコがアメリカで発展するにつれ、演奏者のための全国的な会議を開催しようという声が出てきました。会議の目的は、参加者同士がタイコの演奏技術やスタイル、タイコ作りに関する知識を共有し、タイコの文化的意識を共有することでした。

PJ 1997年に、ロサンゼルスで第1回北米タイコ会議を開催して以来、2年に1度のペースでこれまでに11回の会議が開催されています。私たちはこれらの会議の立ち上げに関わり、講師、運営者として積極的に参加してきました。北米タイコ会議は、さまざまなタイコグループが各地から集まり、「なぜ私たちはタイコを演奏するのか?」というビジョンを共有することを後押ししてきました。2016年に行ったアンケートからは、この問いに対する答えとして「愛」「日本」「楽しい」「遊ぶ」「コミュニティ」といった言葉があげられました。

ロイ 50年以上にわたり、まさに私たちはこれらの理由でタイコを演奏してきました。そして2023年に、私たち2人は50周年記念コンサートを行い、私たちの人生そのものとなったタイコのストーリーを表現しました。長い歳月の中で育まれてきたかけがえのない友情と絆に、深く感謝しています。

1世たちの歴史を伝える「えいじゃないか」

PJ 30年ほど前、私はサンノゼタイコのために「えいじゃないか」というタイコと踊りの作品を創りました。日本からアメリカに移住した1世たちへの敬意を込めた作品です。

1972年にはじめて日本を旅したときに体験した、阿波踊りと小倉祇園太鼓にインスピレーションを受けたことが元になっています。歌詞と歌は、佐渡を拠点に活動する日本のプロ太鼓集団「鼓童」の藤本容子さんをお願いしました。サンノゼタイコの舞台の演目のひとつとして創ったものですが、いまではカリフォルニア各地のお盆フェスティバルの定番であるだけでなく、世界中で演奏されるまでになりました。

「えいじゃないか」に込められた願いは、人々が喜びをわかちあい、健やかな人間関係と豊かな地域社会を共に作り上げていくことです。踊りの動きひとつひとつに、1世の方々が移住して苦労された歴史を織り込みました。畑で土を耕している様子、炭鉱で石炭を削っている様子、漁業で網を集めている様子、汗をぬぐう様子など。「えいじゃないか」が世界中で演奏され、踊られ、口ずさまれることで、日系アメリカ人の歴史が忘れ去られることなく残っていくのだと思っています。



サンノゼお盆フェスティバル

“Where intention goes, energy flows”

(意思のあるところにエネルギーは流れる)

PJ この言葉は、私たちがタイコの「道」を歩み続けるための指針のひとつとなっています。私たちが、常に開かれた心と柔軟な考え方をもち続けることで、そのエネルギーはタイコの響きを通して世界中に広がっていくのだと思っています。

ロイ 50周年は、私たちがタイコ演奏を終えるという意味ではありませんでした。むしろ、タイコを通して培ってきた私たちの在り方であるタイコの「道」こそが、よりよい世界のためにエネルギーと変化を生み出すインスピレーションとなり得るのだということを、改めて認識する機会になりました。まさに今、この時代だからこそ、とても重要なことではないかと思っています。

佳子さまがブラジルをご訪問

6月4日から17日まで、秋篠宮ご夫妻の次女・佳子さまがブラジルを公式訪問された。

今年2025年は、日本とブラジルの外交関係樹立130年にあたることから、日伯両国の友好交流年となっている。佳子さまは現地時間の6月5日午前に最初の訪問都市であるサンパウロに到着。イピラプエラ公園内にある開拓先没者慰霊碑に花を供えて拝礼された後、日本館を訪れて桜の木を記念植樹されたほか、ジャパンハウスの視察などを行われた。

佳子さまの外国公式訪問は今回で4回目。サンパウロ以外にも、マリンガ、ブラジリア、リオデジャネイロ、フォス・ド・イグアスなど8つの都市を巡り、各地で行事などに参加されて熱烈な歓迎を受けられた。

日系社会リーダー育成事業・募集開始!

JICA日系社会リーダー育成事業の2026年度募集が7月1日より開始している。本事業は、日本の大学院に入学が決定している、もしくは入学を希望している中南米地域の日系人を対象に、将来の日系社会を担うリーダーを育成することを目的としてJICAが渡航費や学費、生活費等を支給するもので、当協会が募集支援並びに手当の支給等を受託し実施している。

2026年度も、アルゼンチン、ウルグアイ、コロンビア、チリ、ドミニカ共和国、パラグアイ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコの11カ国より10名程度の受入れを予定。日系社会・居住国の経済発展、社会発展に寄与する分野で活躍することを目指す日系人(概ね3世まで)が対象で、日常生活に支障のないレベルの日本語能力が求められる。海外からは、居住国のJICA在外事務所が応募の窓口となるが、国内からの応募は当協会が問い合わせおよび応募書類の送付先となっている。(詳細は当協会WEBサイトをご参照ください)

JICA横浜 海外移住資料館 夏休み子ども向けイベントのご案内

海外移住資料館では、夏休みの子どもたちを対象としたイベントを企画している。7月26日と8月6日に行うのは、「昔のパスポートをつくってみようーパスポートのおはなしと印章ワークショップ」。開国してから現在までのパスポートの歴史をクイズ形式で学び、「印章」と呼ばれていた昔のパスポートを創る。小学3年生から6年生くらいを対象としたワークショップで、各日ともに2回実施(要事前予約)。

8月30日に行うのは、「紙芝居でまなぶ移住のおはなし」。紙芝居師がやってきて海外移住資料館オリジナルの紙芝居「弁当からミックスプレートへ」「ハワイにわたった日系移民」の2作品を実演する(予約不要)。どちらのイベントとも参加費無料。参加者には資料館オリジナルグッズのプレゼントもある。詳しくは、海外移住資料館のWEBサイトへ。

日系社会 Topics

海外移住家族会交流懇談会を開催

2025年6月18日(水)、海外移住家族会の交流懇談会が横浜で行われた。海外移住家族会は、戦後移住が再開された際、家族を送り出した日本国内の親族らによって県単位で組織され、1962年にその全国組織として『日本海外移住家族連合会』(略称=家族会)が創設された。1999年4月の解散以降は、それまで同会が実施してきた海外日系人訪日団の受入や移住者家族子弟研修生事業を当協会が引き継ぐ形で実施してきた。

今回の交流懇談会には、北海道、富山県、石川県、島根県、大阪府(オンライン)から各家族会の代表が参加。当協会田中克之理事長の挨拶の後、地方家族会の活動状況報告、当協会の家族会関係事業報告を

行った。意見交換では、各家族会の抱える共通の課題である会員数の減少等について、活発な意見が交わされた。



戦後80年「日系」をとおして平和を考える夏! すすきじゅんいち監督作品 日系映画三部作 上映会

戦後80年を迎えるこの夏、JICA横浜 海外移住資料館では、すすきじゅんいち監督作品の日系映画三部作を3週連続で上映する。

第二次世界大戦中、アメリカに住む日系人は「敵性外国人」とみなされ、強制収容されただけでなく、財産を失うなどさまざまな悲劇に見舞われた。日本とアメリカ、両国の狭間で偏見や差別、葛藤と闘った日系人の姿を描く。

上映後には、すすきじゅんいち監督のトークショーも開催詳細はJICA横浜 海外移住資料館のWEBサイトまで。〔「海外移住資料館」で検索!〕

なにができるんだろう?

夢と希望にあふれた
社会づくりを実現させるために、
わたしたち大成建設は
これからも人がいきいきとする環境を創造します。

地図に残る仕事。
大成建設
1873
For a Lively World

